



平成25年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2013/10/10 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 B 問2 A 問3 D 問4 D 問5 C 問6 C 問7 B 問8 D
問9 D 問10 A 問11 B 問12 D 問13 A 問14 A 問15 C 問16 C
問17 B

第2問（12点）

問1 E 問2 D 問3 B 問4 C 問5 D 問6 B

第3問（18点）

I

問1 D 問2 A 問3 A

II

問1 B 問2 C 問3 A

III

問1 E 問2 C 問3 B

第4問（26点）

(1)

① H ② E
ア D イ C

(2)

③ B ④ G ⑤ C
ウ E エ D

(3)

⑥ I ⑦ F ⑧ G ⑨ D
オ B カ A キ B

(4)

ク D ケ A コ C

(5)

⑩ F ⑪ G ⑫ A
サ D シ C ス A セ E

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2013証券アナリスト1次試験（秋）

「財務分析」

2013 年（秋）試験は、例年通り大問 4 問の出題で、各大問への配点も同じであった。第 1 問の正誤選択問題の難易度が高い一方で、分析総合問題は高得点が可能な内容であり、全体として例年通りのレベルであったと思われる。具体的な内容は、以下のとおりである。

第 1 問の正誤選択問題は、17 問の出題であった。主に会計制度からの出題であり、例年通り難易度が高く、得点を重ねることが難しかったと思われる。

第 2 問の個別計算問題は、6 問の出題であった。繰延ヘッジ会計やのれんの償却額の算出など、従来問われていない論点の出題も見られたが、各論点とも基本的な計算処理が問われており、標準的な難易度の出題であった。

第 3 問の総合計算問題は、9 問の出題であった。Ⅰリース会計、Ⅱ減損会計、Ⅲ株式価値評価について 3 問ずつ出題された。全体としては標準レベルの出題であったが、「減損会計」については条件の読み取りが難しい設問も含まれ、難易度が高かったと思われる。

最後の第 4 問の分析総合問題は、2010 年（春）試験以来となる生産性分析が出題された。ただし、難易度は標準的であり、その他の収益性及び安全性分析の論点についてもオーソドックスな内容が中心のため、十分に満点を狙える問題であったと思われる。

以上

TAC 証券アナリスト講師室